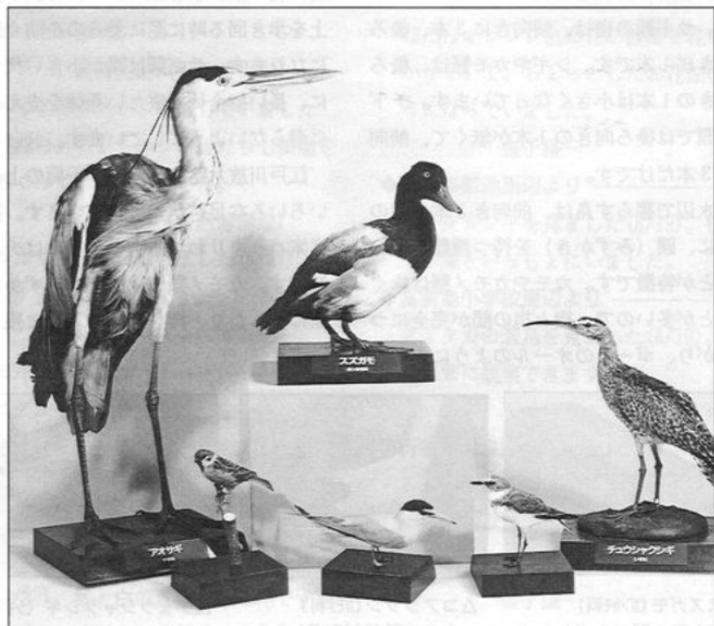


市川自然博物館

10・11月号

(通巻76号)

だより

鳥Ⅳ『江戸川放水路の鳥』
の特集

△今回ご紹介する種類です。スズメを目安に大きさを比べてください。

奥左：アオサギ 奥中央：スズガモ

手前左から：スズメ、コアジサシ、シロチドリ、チュウシャクシギ

鳥Ⅳ『江戸川放水路の鳥』

の特集

江戸川放水路には、東京湾の三番瀬へとつながる干潟、河川敷のヨシ原、土手の草原などの環境があります。そこは、季節ごとに水辺に飛来する渡り鳥はもちろん、ヨシ原の中や草原などにも目をやると、多くの種類が楽しめるポイントです。また、ほかの東京湾岸の保護区とは異なり、誰でも気軽に訪れることのできる場所でもあります。今回はその中から、水辺で見られる種類を紹介します。

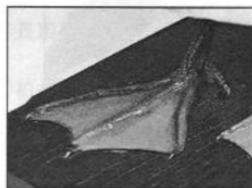
●水鳥の足

鳥の脚の指は基本的に4本ですが、暮らす場所に合わせて様々な形をしています。サギ類の指は、前向きに3本、後ろ向きに1本です。シギやカモ類は、後ろ向きの1本は小さくなっています。チドリ類では後ろ向きの1本が無くて、前向き3本だけです。

水辺で暮らす鳥は、前向き3本の指の間に、蹼（みづかき）を持つ種類が多いことが特徴です。カモやカモメ類は泳ぐことが多いので、指と指の間が完全につながり、ボートのオールのように水をか

くのに適しています。シギやチドリ類の指の付け根に小さくついた蹼は、干潟の上を歩き回る時に泥に落ちるのを防ぐ助けになります。サギ類は蹼が小さい代わりに、長い指全体で重たい身体を支え、泥に落ちないようにしています。

江戸川放水路に行くと、干潟の上には、いろいろな足跡が残されています。指が3本ハッキリわかる小さなものはチドリ類です。カモメ類の足跡は、みづかきの形にべったりと押しつけたように残っています。



△スズガモ（加科）

指と指の間がみづかきでつながっていて、泳ぐのに適している。カモ類のほとんどはこのタイプ。



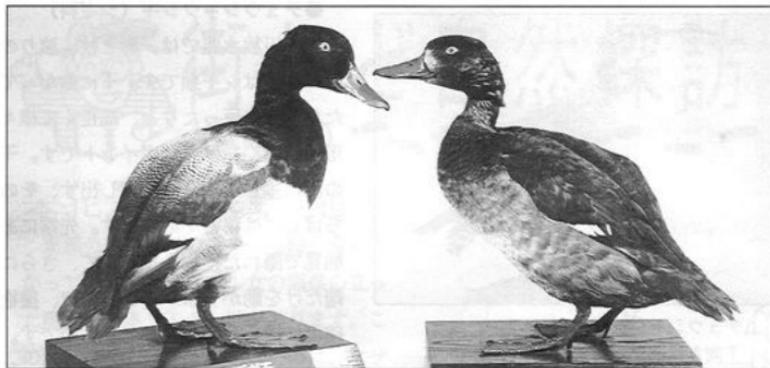
△コアジサシ（加メ科）

カモメ科だがみづかきに切れ込みがあるタイプ。飛行が得意なのであまり泳いだり歩いたりしない。



△チュウシャクシギ（シ科）

干潟の泥に潜りづらいうように長い指の根元にわずかにみづかきがある。チドリ類も同じタイプ。



△スズガモ (左:雄 右:雌)

雄の頭は黒で、背中、灰色、腹と脇の白とのコントラストが美しい。

雌は褐色の地味な色をしているが、くちばしの根元がぐると白いのが特徴。

●カモ類 (ガンカモ科)

カモ類は、色がきれいでも身体の模様が特徴的な雄に対して、一見すると雌はみな同じように茶色っぽく見えます。そのため種類の区別は、雄は比較的簡単なのですが雌は難しく、いろいろなポイントに注目する必要があります。模様の違いはもちろん、ペアや群れで行動している様子、頭や嘴の形や全身のシルエットなどもよく観察すると判断の助けになります。

ちなみに放水路で見られるカモ類は、カルガモ以外は全て冬鳥です。またカルガモは身体の模様が雌雄で同じです。
(見られる季節:おもに冬)

*放水路で見られるカモ類

『市川市鳥類目録』

(発行/ 市川市川自然博物館

1993)より

マガモ	オナガガモ
カルガモ	ハンビロガモ
コガモ	ホシハジロ
オカヨシガモ	キンクロハジロ
ヒドリガモ	スズガモ

●コアジサシ (カモメ科)

細長い翼を使ってたくみに飛行し、空中に静止しながら魚を狙い、真直ぐに水に飛び込む姿には見とれてしまいます。

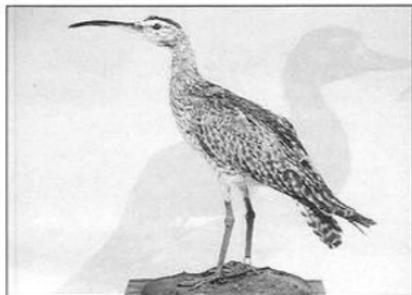
川原のような広々として少し乾いた場所に集団繁殖地(コニ)をつくります。数年前までは幕張の埋め立て地に、昨年は市内の工場跡地にありましたが、建物が建ったり草が茂ると場所を移し、繁殖地は安定しません。江戸川放水路では普通に見られますが、国の絶滅危惧種に指定されています。(見られる季節:春~夏)



△コアジサシ

細長い翼は、体からはみ出すほど。

尾も長く、燕尾状。



△チュウシャクシギ

下向きに曲がったくちばしが特徴的なシギ。口笛の様な声で鳴きながら飛ぶ。

●シロチドリ (チドリ科)

干潟をちょこちょこ走り回り、ピタッと止まって小さな生物を探る、また走る、その動作を繰り返します。シギ類のようにくちばしが長くないので、深く潜った生物は捕まえられません。

シロチドリは黒色の脚、よく似たコチドリは黄色の脚なので簡単に区別できるようですが、干潟では脚が泥で汚れていることがあるので、決め手にはなりません。(見られる季節：一年中)



△シロチドリ

短い嘴、丸い頭、大きな目は、チドリ類に共通の特徴。

●アオサギ (サギ科)

日本のサギ類では一番身体が大きく、全体の色も青灰色をしているので、白鷺の仲間よりもどちらかというところと鶴と間違えられがちです。

とても長い脚でゆっくりと水際を歩き、長い嘴で魚などの餌を捕まえます。休んでいる時には、長い首を肩に埋めるようにして縮めるので、ボートの縁などに留まっていると、人かと見間違ってしまう。(見られる季節：一年中)

△アオサギ

脚とくちばしがとても長く、翼は開くと1.6mに達する。後頭の冠羽が目立つ。





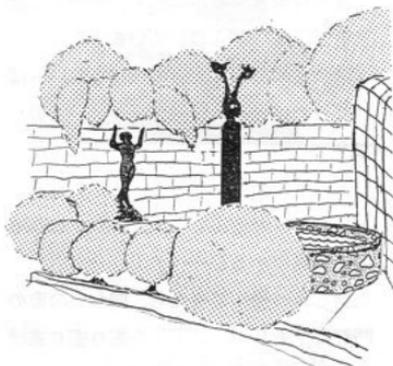
街かど自然探訪

おじゃまして!

もときたかた
本北方・みのわ池

東部公民館の横の道を美濃輪公園に向かって歩いて行くと、少女の銅像の立った噴水のある、みのわ池があります。この池には流れ込む水源もないのに、なぜ水があるのでしょうか？

池から美濃輪台遺跡に向かう途中に崖があります。崖の上の台地に降った雨が地面にしみ込んで、みのわ池で湧水となり、出てきているからです。むかしは、この水を利用して、このあたりでは農業をおこなっていたそうです。



RDB レッドデータブック

掲載種紹介



タコノアシ

変わった名前は、実の時期の姿によっています。湿地や川原などの湿った場所に生育する植物で、市内では江戸川べりで見られます。もともと不安定な環境に生えるせいか生育状況は変化することが多く、河川の増水などで群落が失われたかと思うと、工事で河川敷を掘り返したら群落が出現したなどということもあります。広い視点に立てば、江戸川流域では、いつもどこかしらに点在して生育していると言うことができます。



・種子植物
ユキノシタ科
・絶滅危惧Ⅱ類

夜の散歩で見た ヤモリ

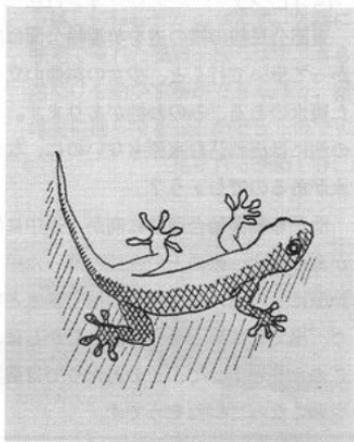
夜8時過ぎに散歩に出て、ヤモリの話
を綾乃としながら歩いていました。

「前に住んでいた北方の家は自然いっば
いだったけど、八幡はヤモリ、いるのか
な？」

「家の壁に隙間があって、そこに結構大
きいヤモリが住んでいるよ。ウンコがそ
の辺で見つかるし……」

と話しつつ帰って来たら、向かいの家の
門灯にヤモリがいて尻尾を振り振り逃げ
ました。我が家のより色白でした。

(水垣麻理子さん)



むかしの市川

このコーナーでは、博物館が1986年に
行ったアンケート調査の結果から、むか
しの市内の様子を紹介しています。

(原則として回答は原文のまま掲載)

・市川市になった頃、国分地(北台、平
川、根古屋、六反田4自治会)は準農
村地区であり戸数は250世帯位でした。
そして家の近は皆田浦、畑でありまし
た。道路が巾せまく、悪い道でした。
ふり返り思いますが家には電灯が1、
2灯位、街灯がついて居らず国分川の

橋上などで秋の頃(午後8時頃)南側
より菅野、須和田、宮久保、曾谷、稲
越方面何所を見ても電灯一つ見えず真
暗やみです。今思い出し今日ではのあ
かるさうそのようです。(国分)

・終戦後はまだ旧行徳町高谷でした。住
人の80%は農家で一部の人達は漁業を
兼業として生活して居りました。のり
漁業をしている人達もおりました。

(高谷)

・家の近くはすぐ海だった。沼やあれ地
が多く、人家がまばらだった。(新井)

観察ノート

◆大町公園より

- ・ミソハギの赤紫色の花が咲きだしました(7/6)。盆花とも呼ばれ、夏の観察園を鮮やかに彩ります。
- ・サシバが林で休息していました(8/10)。サシバの渡りが見られる季節になりました。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・テングチョウを見ました(7/11)。その名のとおり頭の先が天狗のようにとんがっています。

清野元之(自然博物館)

- ・ヘイケボタルが、明滅していました(7/27)。カブトムシの雄たちも餌場をめぐる争っていました。

小川 晃(自然博物館)

- ・ツルマメの花が咲きました(8/27)。ピンク色の小さい花です。

金子謙一(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・ヒグラシを見ました(7/3)。これから、色々なセミが鳴きだします。

宮橋美弥子

◆大町小学校周辺より

- ・コバギボウシの花が咲いていました(8/23)。紫と白のさわやかな花ですが、株があってもちゃんと花が咲くことは林内では珍しいことです。

金子謙一

◆里見公園より

- ・ヤマガラとシジウカラの群れを見ました(6/30)。
- ・アオバズクは、7月23～25日の間に巣立ったものと思われます(7/28)。今年は、何羽だったかを確認できませんでした。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆堀之内貝塚公園より

- ・キツネノカミソリが咲いていました(8/9)。オレンジ色の花が群落で花を咲かせていて、ちょっとしたお花畑のようになっていました。

金子謙一

◆国分調節池周辺より

- ・セイタカシギを見ました(8/19)。他のサギ類といっしょにいました。

◆富貴島小学校周辺より

- ・オオタカの若鳥を見ました(8/19)。最近頻繁に観察できます。

以上 石井信義さん(菅野在住)

◆行徳鳥獣保護区より

- ・ムスジイトトンボを見ました(7/28)。他にもナツアカネやシオカラトンボなどいろいろなトンボが見られました。

金子謙一

◎7月1日に梅雨明けしてしまい、猛暑、渇水の夏でした。



行事案内



自然観察会

申込が必要です

毎月テーマを変えて、市内各所に出かけます。内容により対象が異なります。

テーマ	対象	日時	場所	受付開始
紅葉と木の実	指定なし	11月11日(日)午前	うしろ谷津	10月20日～
冬の野鳥	一般	12月9日(日)午前	江戸川放水路	11月17日～

〒申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

博物館セミナー (考古・歴史博物館共催行事)

申込が必要です

博物館の学芸員が日頃の研究成果を、わかりやすくお話しします。

- *時間 午後6時～8時
- *場所 中央公民館(葛飾八幡宮参道脇)
- *内容
- 10月20日(日) 『資料に見る大正時代の国分村の人々』 [小野英夫・歴史博]
 - 10月27日(日) 『市川市の庚申塔partⅡ 一総集編ー』 [小泉みち子・歴史博]
 - 11月10日(日) 『くゆるす縄文の器』 [堀越正行・考古博]
 - 11月17日(日) 『観音信仰と伽藍配置』 [山路直充・考古博]
 - 11月24日(日) 『毒のある蛾の仲間』 [清野元之・自然博]
 - 12月1日(日) 『刺すむし』 [小川 晃・自然博]

☎申し込み方法

☎電話で自然博物館までお申し込みください。

連続講座ではありません。ご希望の講座名をお伝えください。

散策会 (長田谷津) (柏井雑木林)

申込は必要ありません

ゆっくりと散策しながら、四季それぞれの自然を楽しみます。

- 長田谷津
 - ・日時 毎月第1土曜日(8月は除く) 午後1時30分～3時
 - ・集合場所 動植物園券売所前
- 柏井雑木林
 - ・日時 毎月第3土曜日 午後1時30分～3時
 - ・集合場所 市民キャンプ場 管理事務所前

※天候不良の場合は中止、はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせを。

野草名札付けのお手伝いを

していただきませんか。

- ・日時 毎月第1土曜日 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入口

※天候不良の場合は中止、はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより
 第13巻 第4号 (通巻第76号)
 発行日/平成13年10月1日
 編集・発行/市立市川自然博物館
 〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
 ☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>